

黒埼町の 今昔

町史編さん課

満洲国移民の軌跡(七) 敗戦後、満洲の日本人移民たちは 日本へ帰るため、汽車で南下した。

通北駅にたどりついた斎藤スイノさんら中蒲原区の人たちのうち、斎藤さんらはすぐに帰国できることになったが、区長の塩田さんは残留組として、炭鉱で働かされた。帰国を許されたのは昭和二十八年のことだった。

ればならなかった。帰国組、南下する。一方、スイノさんら帰国組は、残留組の乗った炭鉱行き列車が発車して間もなく、全員が十数両の無蓋車(屋根のない貨車)に乗せられた。貨車の床にはアンペラが敷かれており、一両にどれくらいの人かがのせられたかわからないが、とにかく貨車の中は狭く、夜は頭と足を相互にして

寝て、寝返りもできないほどだった。しかし、帰国者たちにとつて、汽車であればなんでもよかった。乗れば一歩でも日本に近づく、と感じられたからだ。さて、列車は走り出したが、どこをどう走っているのか、まるでわからない。一番つらかったのは、寒さとの戦いだった。北満の十月は、もう日本の真冬の気

候で、ときたま降る雨は雪よりも冷たく、体の芯まで濡らした。寒さに震えながらの道中だった。列車は走ったり、止まったりを繰り返しながら、のろのろと南下した。貨車の中には何人かの重病人がいた。その人たちを看護し合ったが、いづれも子供を抱えた婦人たちが多かった。苦労は並大抵ではなかった。新京で行方不明になった子供

と泣いて頼んでいた病気の婦人が亡くなった。遺体は駅の付近の土に埋められた。ようやく乗車の命令が伝えられ、貨車に乗り始めた時、スイノさんら中蒲原区の出中慎吾さんの長男「二三」(当時四歳)がいなくなつて、大騒ぎになった。母親は気も狂わんばかりになつて付近を探した。中蒲原区の人々も手分けして探したが、どうしても見つからない。そのうちに発車の時刻となり、「二三」「二三」と半狂乱になつて呼び続ける母親の声を残し、汽車は出発した。その後も方々で汽車から降りられ、一日、二日と野宿を重ねて汽車を乗り継ぎ、ようやく遼東半島の口島にたどり着いた。ここから日本への船が出ていたのである。

山際さん新京で姑と死別 死んだとばかり思っていた姑のテフさんと勃利で再会した山際としさんは、いっしょに帰国すべく新京の収容所まで来た。ところが、ここでテフさんは熱を出し、一晩で亡くなつてしまった。発しんチフスにかかったためだった。劇的な再会もつかの間の、悲しく決定的な別れだった。結局、山際さんは新京から一人ぼっちで帰国しなければならなかった。山際さんの日本までの帰国ルートは、斎藤さんらとほぼ同じで、時間的にも近かったから、途中でいっしょになつたこともあったかもしれない。取材協力：斎藤スイノさん、塩田誠さん、山際としさん 執筆：宮田栄門

凍土からの聲

外地引揚者の実体験記

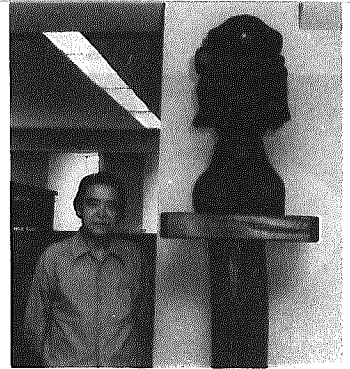


満洲などからの外地からの引揚者たちの手記をまとめた「凍土からの聲」表紙。本文中の塩田さんの手記も載っている。県内の移民団や引揚者の記録については次回で紹介。

「ソ連兵や中国兵に呼びとめられても決して相手を見ないよう、見られないように」という区長のアドバイスを守つて、婦人たちは全員が下見づくになり、一人子の親は子供を前に必死にかき抱き、何人かの子持は両脇にしっかりと子供とスクラムを組むようにして、小走りに駆け抜けた。新京へ着くと何の説明もありません。また全員が貨車から降ろされ、駅前あたりに半日くらい待機させられた。五福堂を發つとき「どうして日本へ連れて帰つてね」

と泣いて頼んでいた病気の婦人が亡くなった。遺体は駅の付近の土に埋められた。ようやく乗車の命令が伝えられ、貨車に乗り始めた時、スイノさんら中蒲原区の出中慎吾さんの長男「二三」(当時四歳)がいなくなつて、大騒ぎになった。母親は気も狂わんばかりになつて付近を探した。中蒲原区の人々も手分けして探したが、どうしても見つからない。そのうちに発車の時刻となり、「二三」「二三」と半狂乱になつて呼び続ける母親の声を残し、汽車は出発した。その後も方々で汽車から降りられ、一日、二日と野宿を重ねて汽車を乗り継ぎ、ようやく遼東半島の口島にたどり着いた。ここから日本への船が出ていたのである。

山際さん新京で姑と死別 死んだとばかり思っていた姑のテフさんと勃利で再会した山際としさんは、いっしょに帰国すべく新京の収容所まで来た。ところが、ここでテフさんは熱を出し、一晩で亡くなつてしまった。発しんチフスにかかったためだった。劇的な再会もつかの間の、悲しく決定的な別れだった。結局、山際さんは新京から一人ぼっちで帰国しなければならなかった。山際さんの日本までの帰国ルートは、斎藤さんらとほぼ同じで、時間的にも近かったから、途中でいっしょになつたこともあったかもしれない。取材協力：斎藤スイノさん、塩田誠さん、山際としさん 執筆：宮田栄門



町立図書館に大黒様の木彫が寄贈されました(新潟市の小林貞一さん寄贈)

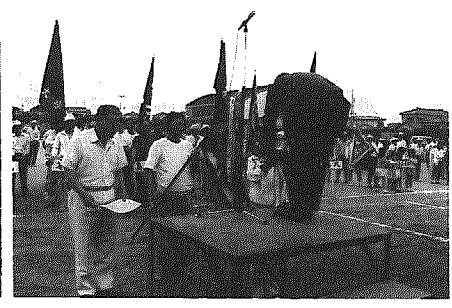
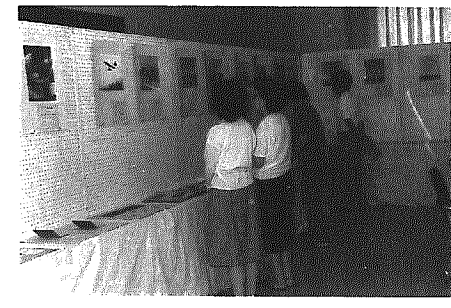
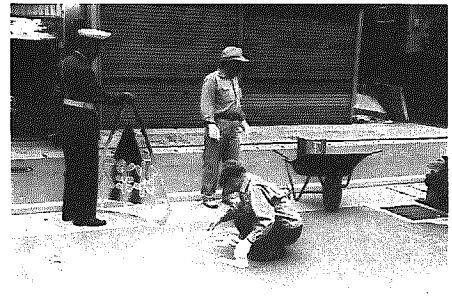
ニ/ユ/ー/ス/足/報/ 毎月15日ごろまでにご連絡を

交差点では、とまれ

興野の自治会では、六月八日(水)、一時停止の標識のない交差点の路上にストップマークを描きました。白いペンキで三角形に「とまれ」の文字の入ったマークです。これを見てちよつとでも注意してくれば」と。なお、町内の他の地域でも、八月ごろまでにストップマークを描く作業をするという予定です。

調理師総会で二人が表彰

六月十七日(金)、農村環境改善センターで巻保健所管内調理師会通常総会が開かれました。西浦・燕から約百人が出席、今後一年の計画等を決めました。また、功労者六人、優良調理師六人の表彰も行われ、黒埼からは功労者として山田忠さん、優良調理師として宮野二郎さんの二人が表彰を受けました。



町民大運動会、盛大に

恒例の黒埼町公民館主催・分館対抗の町民大運動会は六月十九日(日)、黒埼中グラウンドで行われました。当日は晴天に恵まれ、選手たちはそれぞれの競技に頑張りました。成績については左記のとおり。なお、学童リレー優勝の板井は、これで女子が四年連続、男子は三年連続の優勝でした。写真は、表彰式の様子。

航空写真展に百二十人

六月九日(木)から十二日(日)まで、北部地区公民館で開かれた粕谷欽二さんの航空写真展には、四日間合計百二十人が訪れました。昔の新潟市街の航空写真を見て、思わず「なつかしい」と声をあげる人もいました。なお、北部地区公民館では竹内竹市さんの水墨画展も今年度中に開催する予定です。(期日未定)



善意の窓 *佐藤秀男さん(柳作)がカーミラーを寄贈。

※東北電力(株)新潟営業所が街灯七基を寄付。
※武田三吉さん(木場八割)が旧一万円札を寄付。

スポーツ大会

- ◆町民大運動会(6月19日、黒中グラウンド)
- ①木場77点 ②板井72点 ③山田71点 ④鳥原本村70点 ⑤黒鳥69点 ⑥立仏68点 ⑦寺地62点 ⑧金巻61点 ⑨寺地団地61点 ⑩鳥原大明59点 ⑪中学通59点 ⑫鳥原新田57点 ⑬柳作57点 ⑭大野55点 ⑮北場54点 ⑯善久53点 ⑰小平方53点 ⑱蓮方団地52点 ⑲川原45点 ⑳焼鮎団地44点 ㉑鳥原新地43点
- ▶学童リレー 男子①板井②立仏③木場 女子①板井②善久③木場
- ▶年代別リレー 男子①板井②木場③立仏 女子①立仏②木場③寺地

- ◎第10回さつき展示競技会(6月4日・5日、環境改善センター)
- ▶町長賞・茨木喜一▶武田県議賞・渡辺九蔵▶公民館長賞・高橋精三▶分裁会長賞・渡辺九蔵▶農協組合長賞・笹川藤之輔▶町議会議長賞・池田熊男▶教育長賞・宗村栄一▶教育委員会賞・長谷川義雄▶審査長賞・山際国男▶人気コンクール一般投票金賞・池田スヨ
- ※会場ではさつきだけでなく山野草の展示も行われ、こちらも好評でした。

黒埼体操クラブ 昭和62年度の大会結果

62年度は各大会で予選を通過、全国レベルへの出場も増えた年でした。こうした動きを契機に、当クラブを基盤とした新しいかたちの体操選手が生まれてくるものと信じています。指導員も他の県内外の指導員に負けぬよう指導していきたいと思っています。(担当指導員 海老名秀貴)

◎春季県ジュニア体操選手権大会(5月、新潟市)▶男子小学生以下/団体総合 優勝 高野俊也 2位・浦井健一 3位・村井道幸 ▶女子小学生以下

団体総合・5位 ▶男子中学生以下/団体総合・2位/個人総合 2位・小柳一也 4位・加藤慎人 加藤沢男杯・品田智数

◎秋季県ジュニア体操選手権大会(9月、分水町)▶男子小学生以下/団体総合 3位/個人総合 優勝・村井道幸 6位・田中優介 ▶女子小学生以下/団体総合 5位▶中学生以下男子/団体総合 3位/床6位・品田智数 加藤沢男杯・佐野友治

◎県体操競技選手権大会(11月、新潟市)▶高校女子/優勝・佐藤緑▶中学生以下男子/6位・佐野友治(小4) 8位・品田智数(小6) 11位・間加津昭(小6)